

今月の特集では、鉄道総研の国際活動について紹介しました。日本における鉄道事業は基本的に国内向けのサービスですが、それを支える技術に国境はありません。そのため、鉄道総研では、共同研究の実施や国際会議への参加等の国際活動を積極的に行っています。また、近年では、グローバル化の進展に伴い、国際規格への対応も重要になっています。そこで、鉄道総研では、鉄道国際規格センターを中心として国際規格に関わる様々な活動を行っています。

鉄道はそれぞれの国や地域毎の気候や地理に応じて独自の発展をしていると思います。だからこそ、国際交流をすることで、お互いに新しい発見や互恵関係が期待できます。鉄道総研にとって、国際活動は今後ますます重要になっていくと思います。

さて、来月号の特集は「走行安全性」を予定しています。走行安全性の向上は鉄道技術の中で最も重要なテーマの一つで、鉄道総研でも継続的に地道な取り組みがなされています。来月号ではその一端をご紹介しますのでご期待ください。(M.K.)